



活動を始める一歩を応援「コトハジメ」

海辺のみどりを市民の手で育もう

仙台市東部の仙台湾に面する地域には、潮風から家や畑などを守る「海岸林」や「居久根」が広がっていましたが、東日本大震災の津波によってその多くが失われました。暮らしに根ざした海辺の森を復活させようと2014年からスタートしたのが、市民有志による「ふるさとの杜再生プロジェクト」です。2021年までに市民参加型の植樹会などを経て2万4千本の苗木が植えられてきました。現在は、苗木周辺の除草や、新たな苗木づくりなど、苗木の成長を応援する「育樹」を進めています。豊かな海辺のみどりを、仙台の復興のシンボルとして未来につなぐ活動に参加してみませんか。



▲育樹会に参加した子どもを対象に昆虫観察などのミニイベントもあります。(先着15名、現地にて9時から受け付け)

育樹会2024 各月第3土曜日に開催

日時:6/15、7/20、9/21、10/19 9:00~12:00
場所:仙台市宮城野区蒲生字八郎兵工谷地
(海岸公園野球場・テニスコート奥)
※駐車場・トイレあり

持ち物:汚れても良い服装
(長袖・長ズボン)、軍手、飲み物
参加方法:事前申し込み不要。直接会場へ。
※都合に合わせた時間で参加・解散可能
※雨天時は「海岸公園センターハウス」の
ブログにてお知らせ



仙台ふるさとの杜
再生プロジェクト

HP▶



問合せ
海岸公園センターハウス
TEL 022-288-4021

ブログ▶



活動に役立つ書籍を紹介「お役立ち本」

いまあなたにできる、50のこと ボランティア、最初の一歩の踏み出し方

日本や世界で起こっている悲しいニュースを目の当たりにして、「何か世界のためにアクションを起こしたい!」と思っても、規模の大きさや問題の深刻さに圧倒されて、自分は無力だと感じることはありませんか?本書では30円の寄付で砂漠に1本の木を植えられるなど、具体的な50のアクションを紹介しながら、一人ひとりが小さな行動を起こし続けることが、社会をよくするためのカギであると説いています。社会貢献したい人が、すぐに行動を起こすためのヒントになる一冊です。

著者・発行所:WAVE出版



つながる つなげる サポセン

仙台市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。お気軽にご相談ください。

今月の休館日 6月12日(水)、26日(水)

開館時間 月曜日~土曜日 9:00-22:00
日曜日・祝日 9:00-18:00
休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042
[ホームページ] https://sapo-sen.jp
[サポセンブログ@仙台] https://blog.canpan.info/fukkou/

「ばれっと」バックナンバーは
ホームページからダウンロードできます。



ほぼ毎日更新している「サポセンブログ@仙台」で、取材の様子やこぼれ話を配信しています。

編集・発行

仙台市民活動サポートセンター
(指定管理者:特定非営利活動法人
せんだいみやぎNPOセンター)

発行日 2024年6月1日
デザイン PEACE Inc.

[X(エックス)]

@SCSC4CA

[YouTube]

サポセンちゃんねる



ばれっと 6

仙台市民活動サポートセンター通信 ばれっと

「ばれっと」には、仙台市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

特集

スポーツを通じた共生社会の実現



一歩踏み出す気持ち芽生える「ワクワクビト」

人が好き。音楽が好き。 つないだらもっと楽しい

MUSIC HUB PROJECT 発起人

和 田 菜 水 子 さん (33)

「音楽がなくても生きていけるけど、あると毎日が楽しい」。そんな思いを持つ和田さんは、2023年6月、音楽イベント発信サイト「OtoHub」を立ち上げました。サイトの目的は、「音楽を聴きに来てほしい人」と、「音楽イベントを探している人」をつなぐこと。知らなかった音楽にたくさん出会ってもらうために、開催日時や場所から簡単に検索できる仕組みです。また、サイトの活用を促す中で、音楽家や演奏者、音楽サークルのメンバー、フェスの実行委員などを集めて交流会を開催。それぞれが持つノウハウや情報を共有することで、手を取り合える仕組みにつなげたいと考えています。

出身は広島市。小学校では brass band、中学・高校では吹奏楽部に所属しました。練習はあまり好きではありませんでしたが、みんなでつくり上げる音の世界が大好き。中学生の時にはアイルランドの民俗音楽にはまり、「なんでこんな美しいものを知らなかったんだろう!」と夢になりました。大学は、地元の音楽大学に進学。世界中の音楽に触れ、学びを深める中で発生したのが、東日本大震災でした。音楽に熱中してきた和田さんですが、「音楽って無力だな」と、自分の価値や進路に迷うようになり、答えを見つけるべく卒業後の2014年3月、単身で石巻へ。被災地の人たちとつくるミュージカルに参加したり、地域の人とウクレレバンドを立ち上げたりする中で、技法に関わらず多くの人とワ



クワク感を共有できる音楽の価値を再確認。その矢先の同年8月には、広島で土砂災害が発生し、急ぎ戻った地で災害後の地域コミュニティづくりに携わりました。人と人のつながりが大きな力になることを学び、2020年に転勤で再び宮城へ。いつしか、演奏したり音楽を教えたりする以外の形で、「できること」「やりたいこと」が増えていました。

「音楽もサイトも、動かすのは楽しむ人の力」。音楽を楽しむ人の輪を今後多くの人と広げていきます。



▲2023年6月に初開催した「OtoHub説明会&交流会」の様子



▲創設したウクレレバンド。その名も「ウクレレちんどんオーケストラ」

音楽イベント発信サイト 「OtoHub」

音楽活動者がジャンル・レベル・活動形態に関わらず、誰でもコンサートやライブなどのイベント情報を発信できるサイトです。



協働による活動事例を紹介「ちまたのコラボ」



特集

スポーツを通じた共生社会の実現

野球・サッカー・バスケットボールなどのプロスポーツチームが本拠地を置き、駅伝やマラソンなど、スポーツ大会の開催地になることもある仙台。障がいや感覚過敏の症状がある人でもスポーツ観戦を楽しめるように、仙台でも「センサリールーム」を設置する取り組みが始まっています。取り組みの中心を協働で担うのが、プラスクロスと市民スポーツボランティアSV2004（以下、SV2004）です。試合の主催であるクラブチームや会場のスタジアム、ボランティアなど多くの人や団体をコーディネートし、2022年3月から2024年3月までの間に8回、バスケットボールやサッカー、コンサートで各回5人ほどの少人数を対象にセンサリールームを設置しました。



プラスクロス

代表

やまだ つよし
山田 毅 さん

誰もが気軽に
参加できる
福祉イベントの
企画を行う



市民スポーツボランティア SV2004

いずみた かずお
泉田 和雄 さん

長年、多くのスポーツイベントで
案内誘導などのボランティア活動を行
い「スポーツを支えるお手伝い」
をしてきた

「センサリールーム」普及のためのチャレンジを積み上げる!



両者は2024年4月21日、ユアテックスタジアム仙台で行われたマイナビ仙台レディースの試合で、100席分のスペースを確保し、感覚過敏の人向けのセンサリールームと発達障害など障がいのある人向けのスペースを設置しました。当事者16人、同伴者10人、スタッフ11人の計37人が利用。音を軽減させるイヤーマフや、1人のスペースを確保できるテントなどを準備。ボランティアス

タッフが常駐して安全性を確保するとともに、当事者、同伴者と一緒に楽しく過ごせる空間を提供しました。

子どもたちからは「楽しかった」「また観たい」、同伴した家族からは「すっかりファンになり、部屋がグッズで埋まっています」「久しぶりに夫婦で話す時間がとれました」など高い満足度を示す感想が寄せられました。

「センサリールーム」とは

音や光、ニオイなどの五感の刺激を少なくし、聴覚・視覚など感覚過敏の症状がある人やその家族が安心して過ごせる空間・部屋のこと。サッカーやバスケットボールなどのスポーツ施設やライブ会場などで、周囲の音や光などを気にせず観戦や鑑賞をすることができる。

「感覚過敏」とは

視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚などの諸感覚が過敏で日常生活に困難を抱えている状態をいう。感覚過敏は病名ではなく、様々な病気や障がいの症状のひとつ。

1
ねらい

誰もがスポーツやコンサートを楽しめるのが当たり前な社会へ



様々な障がいや病気で感覚過敏のある人には、大きな声や音で応援するスポーツ観戦や音響照明などの演出がある芸術鑑賞は苦手な場面です。強い刺激を受けるとパニックを起こしてしまうこともあります。また、当事者やその家族は「周囲に迷惑をかけるかもしれない」と会場でスポーツや芸術を楽しむことを諦めている現状があります。外出先の制限は、家庭と学校など限られた世界で決まった人とだけ接する状況を生み、体験の機会を狭めてしまいます。当事者も家族も安心できる場所でスポーツや芸術を楽しむことができれば、本人の世界が広がることはもちろん、スポーツ・芸術分野から見れば新たなファンやプレーヤーの誕生につながる可能性があります。



当事者やご家族へのヒアリングなど、山田さんの細やかな対応がなければ実施できない。第2、第3の山田さんのような人材が必要ですね



2
ポイント

それぞれの専門性や持ち味が活かされた「仙台のセンサリールーム」

SV2004のボランティアさんのおもてなしマインドがすごい。仙台の特徴・強みになると思う



スポーツ界ではJリーグの社会連携活動などを通じ「スポーツを活用して社会課題・地域課題を改善しよう」との動きが広がっており、SV2004も「仙台でもセンサリールームを」と準備を進めてきました。しかし、福祉系の団体とはなじみがなく、対象となる当事者やその家族に情報を届けられるか不安だったところ、障がい者支援の知識、福祉団体とのつながりがあるプラスクロスの山田さんと出会いました。山田さんが大事にしているのは、部屋や物を準備するだけでなく対応する人も含めた、過ごしやすい場をつくること。その「人」の部分にSV2004のボランティアたちがぴったりでした。山田さんは当事者や家族に苦手なことや普段の様子などを聞き、ボランティアに対応のポイントを伝えます。「誰かの役に立ちたい」思いを持ち、これまで数々のスポーツイベントで活動してきたボランティアの対応力が遺憾なく発揮されました。



3
これから

多様な人々がふれあう機会を創出するきっかけに



センサリールームとは何か、まだまだ知らない人が多い現状です。「今は意義を含めて知ってもらって、広めていくための取り組みを積み上げて、みんなで成長していきたい」と泉田さん。

山田さんは、センサリールームをきっかけに障がいのある人もない人も、多様な人がふれあう機会になればいいと考えています。「当事者本人にもその家族にも、安心できる場所はたくさんあると伝えたい」と言います。関わる人や団体、各地での取り組みの輪を広げ、多様な人がスポーツ観戦や芸術鑑賞を楽しめるのが当たり前な世の中を目指しています。



市民スポーツ
ボランティア SV2004



HP▶

プラスクロス



HP▶